

G 2024/10/5(土)13:50-16:50

第2回がんプロフェッショナル研修会

「病院・薬局薬剤師が連携したタスクシフト・シェアによるがん薬物治療の向上」

「臨床試験を通じた薬物治療の向上」

講座情報

「病院・薬局薬剤師が連携したタスクシフト・シェアによるがん薬物治療の向上」

池見 泰明

少子高齢化に伴う社会保障費の増加、医療・介護の担い手不足などの諸問題に対峙するため、医療機能の分化・連携の推進や地域包括ケアシステムの構築が進められている。病院完結型医療から「治し支える医療」へ医療ニーズが変化する中で、地域医療においては病院・薬局薬剤師が密に連携し、質の高い薬学的ケアを実践することが求められている。

さらに、2024年から医師の時間外労働の上限規制が適用されるため、薬剤師が実施可能な業務については医師から薬剤師へのタスクシフト・シェアに早急に取り組む必要があるが、課題も多い。

本講座では、がん薬物療法における病院・薬局薬剤師が連携したタスクシフト・シェアの取り組みと課題について紹介する。

《学習到達目標》

- ・地域包括ケアシステムにおける薬剤師の担うべき役割を説明できる。
- ・がん薬物療法における薬剤師のタスクシフト・シェアの取り組みを理解する。

「臨床試験を通じた薬物治療の向上」

飯原 大稔

我々、医療従事者は、日々の実地臨床において患者の抱える問題を解決するためにEBMを実践している。しかし、現実には最適な治療方針を決定するための科学的エビデンスが存在せず、限られた情報の中でコンセンサスに基づいて医療を提供せざるを得ない場合がある。そのため、情報がない未解決の問題に対しては、質の高いエビデンスを作り出していくことが必要となる。私は、がん化学療法に対する支持医療、特に制吐療法の専門家として、前向き観察研究、第II相試験比較試験、第III相試験比較試験を実施してきた。

本講演では、これらの研究から得た知見をもとに、がん専門薬剤師が世界の医療にどのように影響を与え、変革していけるかをお伝えしたい。

《学習到達目標》

EBM、臨床研究、診療ガイドラインを理解する

講演者情報

病院・薬局薬剤師が連携したタスクシフト・シェアによるがん薬物治療の向上

池見 泰明

京都大学医学部附属病院 薬剤部 副薬剤部長

プロフィール

<略歴>

2003年3月 明治薬科大学 薬学部 薬剤学科 卒業
2005年3月 明治薬科大学大学院 薬学研究科 臨床薬学専攻 修士課程 卒業
2005年5月 京都大学医学部附属病院 薬剤部 研修生
2005年8月 同 薬剤部 入職
2013年10月 同 薬剤部 薬剤主任
2015年9月 同 薬剤部 副薬剤部長

<認定資格>

日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師
日本医療薬学会 医療薬学指導薬剤師
日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師
日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師

<所属学会・委員等>

日本医療薬学会
日本臨床腫瘍薬学会
日本癌治療学会
日本アプライド・セラピューティクス(実践薬物治療)学会

<受賞歴等>

第3回江口記念がん優秀活動賞(2015年6月)

臨床試験を通じた薬物治療の向上

飯原 大稔

岐阜大学医学部附属病院 薬剤部 副薬剤部長

プロフィール

<略歴>

1998年 城西大学 薬学部薬学科 卒業
2000年 城西大学大学院 薬学研究科 医療薬学専攻 博士前期課程 修了
2000年 岐阜大学医学部附属病院 薬剤部
2007年 岐阜大学大学院 医学研究科 再生医科学専攻 博士後期課程 修了
2007年 岐阜大学医学部附属病院薬剤部 薬務主任
2020年 岐阜大学医学部附属病院薬剤部 副薬剤部長

<認定資格>

日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師・指導薬剤師

日本医療薬学会 がん専門薬剤師・指導薬剤師

日本臨床薬理学会 認定薬剤師・指導薬剤師

日本病院会 医療安全管理者

<所属学会・委員等>

The Multinational Association of Supportive Care in Cancer (MASCC)

European Society For Medical Oncology (ESMO) Antiemetic Guideline Update Committee member,

日本癌治療学会 がん診療ガイドライン委員会 制吐薬適正使用ガイドライン改定ワーキンググループ 委員

日本サポर्टィブケア学会 支持療法委員会 CINV 部会委員

一般社団法人オンコロジー教育推進プロジェクト Japan TeamOncology Program メンター